

# 「科学の教室」 ～科学を楽しもう！～ “Touch Science, Enjoy Science”

① 5月2日(土) 終日

「大阪大学いちょう祭で研究室を見学 ～科学の現場を体験！～」

大阪大学(吹田キャンパス・豊中キャンパス)

兵庫県立人と自然の博物館



1年生37名、2年生21名の計58名で大阪大学へ。最初に広大で緑豊かな吹田キャンパスへ。多くの生徒にとって初めての大学見学ですが、ガイドマップで見学先を選びながら、産業科学研究所、微生物病研究所、核物理研究センターなどを見学しました。午後はバスに乗って豊中キャンパスへ。ここには理学部、基礎工学部と文理学部があり、理工系の研究室を中心に自由に回りました。

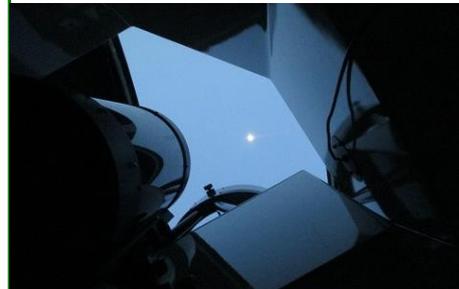


豊中キャンパスを出発し帰る途中に、三田市にある兵庫県立人と自然の博物館に行きました。この博物館は「人と自然の共生」をテーマに設立され、数多くの研究員が所属し研究と教育活動を行っています。最初に生態学分野の研究員である三橋先生に、「コウノトリの野生復帰と自然再生」というテーマで講義をしていただきました。その後、館内の様々な展示を自由に見学しました。

② 5月29日(金) 18:00～22:00

「綾部市天文館95cm反射望遠鏡で星を見る」

講師：大槻さん(綾部市天文館バオ)



1年生12名、2年生13名、3年生2名の計27名で5時に出発。ドームに入るまで明るい空に望遠鏡が向けられ観測が始まりました。キラキラと金色に輝く月に欠けた金星、木星とその周囲を回る4つの衛星、リングのある土星、クレーターで覆われた月面、約50万個の星が集まった球状星団M3、二重星のコール・カロリ、オレンジ色のアークトゥルスと青白いレグルス、等を見ることができました。

③ 10月24日(土) 終日

「京都大学宇治キャンパス公開を見学 ～科学の現場を体験！～」

防災研究所・地震予知研究センター

地震予知研究センターのテレメータ室



一年生21名、2年生2名の計23名の参加。宇治キャンパスに到着すると防災研究所地震予知研究センターの建物に入り、加納靖之先生に地震についての講義をして頂きました。その後、センター内のテレメータ室に移動。この部屋には各地に設置された地震計からの観測データが集まり、ずらりと並んだモニターには地面の揺れを表す地震波がリアルタイムで表示されていました。



宇治キャンパスには防災研究所以外にも、化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所などの研究所と、工学、農学、エネルギー工学の大学院があり、この日は市民を対象に数多くの研究室が公開されていました。生徒達はガイドブックを片手に研究施設を回り、実験装置や研究紹介用のポスターを前にして、研究者や大学院生に説明を受けたり質問をしたりしていました。

④ 12月16日(水) 13:30～15:30

「防災教育で夢を繋ぐ～阪神淡路大震災からのスタート」

講師：河田のどかさん(NPO法人さくらネット)



河田さんは7歳の時に神戸で阪神淡路大震災を体験され、現在は防災教育の仕事にされています。阪神淡路大震災では、地震に備えていれば4000人の命が助かったとも言われています。防災教育を通じて防災の知識と経験を育むことで、たくさんの命を守ることができるという事をお話を頂きました。トークタイムでは河田さんを囲んでいろいろな話をする事ができ学ぶことができました。

⑤ 3月11日(金) 13:00～15:30

「アカデミックミネ特別授業 ～東日本大震災から5年～」

「ふくしま・こどもキャン in 京丹後宇川」参加の報告

「霧箱を使って放射線を見る」(山川先生の実験コーナー)

3人の講師さんを囲んでのトークタイム



今回で5回目となる東日本大震災をテーマにした特別授業には、約50名の生徒と教職員が参加しました。最初に、福島県の子供たちに丹後の自然の中で夏休みを過ごしてもらった「ふくしま・こどもキャン」について、実行委員である京丹后市在住の畑中さんと深田さんに話をいただきました。そしてふくしま・こどもキャンに参加した本校2年生の3名の生徒から参加報告を聞きました。



本校卒業生の堀江さんから、丹後町袖志の棚田の再生の取組の話をお聞きました。堀江さんが学生時代に始めたこの取組は、都会の大学生、丹後の若者、地元住民が参加し今も続けられ地域を活性化しています。「想いをカタチにする」、「小さく産む」、「誰のためか」など、ボランティアや地域活動に関心のある生徒にとって、一歩を踏み出すために役に立つヒントと勇気を頂きました。



本校の生徒会が岩手県陸前高田市に図書館を建設するための「陸前高田市図書館ゆめプロジェクト」に取り組み始めて4年になりました。最初に図書館司書の木村さんに、「震災と復興、本の力、図書館の役割」というテーマで話して頂きました。そして生徒会長の角江君が今年の取組の成果を報告しました。最後の30分間のトークタイムでは3名の講師さんを囲んで楽しく交流しました。

## ～ 参加した生徒の感想 ～

「大阪大学いちょう祭・人と自然の博物館」

産業科学研究所は生活の役に立つことを研究しているのと同じです。未来を支える先端材料が社会の基盤となっているセラミックや金属を、これまでにない性質や機能を盛り込んで新しい材料を作り社会に活かそうとしている。量子ビーム科学研究所は生活には馴染みなく感じるけど、医療や最先端材料開発に役立つことが分かりました。(1年・男子) 野生のコウノトリ復活には様々な分野の人が関わっていることは知らなかった。豊岡は地形の起伏や環境の種類が多いからコウノトリが最後までいたというのはとても納得した。(1年・男子)

「綾部市天文館95cm反射望遠鏡で星を見る」

去年は雲が空を覆って見ることができなかった星を見ることができてとてもうれしかったです。95cmの国内最大級の望遠鏡で星を見るという経験は、一生に一度あるかないかのことなのでとても貴重な経験になりました。印象に残ったのは月と土星とレグルスと球状星団です。月はすごくきれいに光ってしっかりと見ることができました。土星は太陽系で最も好きな天体なので見れてうれしかったです。レグルスは初めて聞いた名前でしたが青く光ってきれいでいい。球状星団は天の川のようでした。とても楽しい経験でした。(3年・女子)

「防災教育で夢を繋ぐ～阪神淡路大震災からのスタート～」

今、丹後に前と同じような大地震が来ても、きっと前と同じ大きさの被害がでると思うので、河田さんが言っておられたように、少しでも多くの命を救うためにできることを、地域全体でやるべきだと思います。河田さんの言っておられた、震災で亡くなった人々の数字をただの数字としてとらえるのではなく、その数の一人一人がどう思うのか、その友達や家族のことも考えると深い、という言葉がとても印象に残り考えさせられました。講話の後のトークタイムでは河田さんと気さくに話し合えてよかったです。(1年・女子)